

2019年8月号へのご意見

20年後、30年後の社会を見据えた教育を

我々教師は、目の前の生徒だけを見て教育活動を考えがちだが、8月号の特集を読み、生徒たちは社会の未来を担う「未来からの留学生」であることを改めて認識した。彼ら、彼女たちが活躍する20年後、30年後の社会を見据えて、今、教師として何をすべきなのか、Society 5.0にかかわる知見を参考に、「木を見て、森も見る」教師になりたいと思った。

北海道 市立札幌開成中等教育学校 松澤 剛

高大接続改革の背景理解を深めたい

「大学入学共通テスト」に向けて、校内で各教科・科目担当に、試行調査の問題分析と、問題作成方針を踏まえた本校の指導方針をまとめてもらった。ただ、高大接続改革の背景を十分理解する機会を設けていなかったため、その内容が薄かった。8月号の特集の記事を資料として、今後議論を進めていきたい。

静岡県 匿名希望

時代と世界とシームレスな学校へ

社会が10年単位で変化していく中、学校はいまだにSociety 3.0の工業社会だと感じた。8月号の特集を読み、社会はさらに次に進もうとしているのに、学校ではそうした議論も交わされていないことに、非常に危機感を覚えた。もっと自由で、イノベーティブで、時代と世界とシームレスな学校としていかなければ、さらなる成

長は望めないと実感させられた。

山口県・私立高水高校付属中学校 佐伯大介

育成を目指す資質・能力の共有化の重要性を実感

8月号の『学校教育デザイン』を描く道標しるべ」を読み、岡山県立瀬戸高校のように、生徒への育成を目指す資質・能力を示すことで、生徒を始め、教師や地域も、各教育活動がどの資質・能力を育む活動であるのかをきちんと認識できるのだと感じた。また、指導改善を検討する際にも、その資質・能力を念頭に置きながら、再構築することが大切だと思った。

東京都・私立東京農業大学第一高校 小堀健一

行政と学校が連携する手法を学んだ

少子高齢化・人口減少は、全国で大きな課題となっている。8月号の「指導変革の軌跡」で取り上げられた沖縄県立久米島高校の記事で、地域の子どもたちを育てることと併せて、行政と学校が連携し、よりよい方策を目指して取り組む姿勢が大変参考になった。

富山県 匿名希望

会議にアイスブレイクを取り入れる手法が参考に

8月号の「これからの会議・研修のあり方、つくり方」で紹介された、会議にアイスブレイクを取り入れるという発想が新鮮だった。会議における準備の重要性も理解できた。

栃木県立佐野東高校 寺崎義人

OFF SHOT



今号の「指導変革の軌跡」の取材で訪れた静岡県立焼津中央高校。玄関で私たちを迎えてくれたのは、学校PRのポスターでした。精悍な顔つきが学生服に映えます。キャッチコピーは校内で考案、モデルはレスリング部とバスケットボール部の生徒。「ユニホーム姿で撮影しようとしたら、生徒が恥ずかしがって」とのことです。でも、高校生活を通じて鍛えられた体を披露するのは、学校PRという趣旨に反さないはずだと、私は思うのです。そんなポスター談義から取材は始まりました。そして、取材を終えた今も、先生方が練り込まれた言葉と生徒の真っ直ぐな眼差しが頭から離れません。言葉を磨けているか、彼らの目に映ることになっても恥じることはないかと、背筋を伸ばして筆を執っています。今年度からVIEW21編集部配属となりました河野仙一、初めての編集後記でした。(河野)

『VIEW21』高校版 公式アカウント

LINE@

友だち募集中!

『VIEW21』高校版や教育に関する最新情報をタイムリーにお届けします。*お友だちの登録方法は、右の2次元バーコードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



VIEW21 高校版 2019 12 月号

次号は 12月16日発行 (予定)

『VIEW21』高校版は年6回の発行です